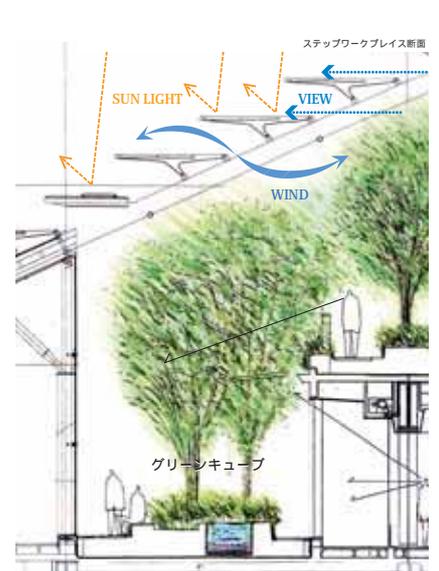


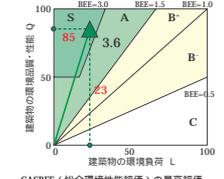
ステップワークプレイス全景



ステップワークプレイス断面

ステップワークプレイスを支える環境技術

ステップワークプレイスやグリーンキューブなど、特徴ある空間の魅力を最大限に活かしながら、地球環境へ配慮した省エネルギー建築物であることをテーマとし、既存の省エネルギーシステムや、建築と一体化した環境調整システムを積極的に導入している。多様な魅力を有する執務環境の創造と環境社会への先導を示す建物を目指した。



CASBEE (総合環境性能評価) の最高評価 Sランク認証 [認証番号] BEE-C0025-NC(c)

日産先進技術開発センター NISSAN ADVANCED TECHNOLOGY CENTER



見 グリーンキューブ地域の植生樹木を坪庭的空間として立体的に配置し、真ん中に設けられる多様な外部空間として、自然がすぐそばにある執務空間を実現。

見 空中散歩階段 層間移動の主導線であり、その隣りには職員同士のインフォーマルコミュニケーションの舞台。自然空間、実業や部室をタイムリーに解体・展示。

確 コラボガレージ スタッフの足下にもありどこからでも見下せる舞臺のインフォーマルコミュニケーションの舞台。自然空間、実業や部室をタイムリーに解体・展示。

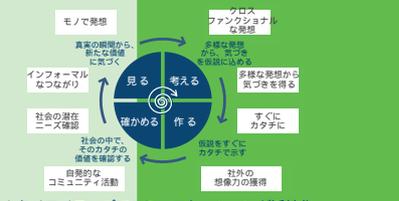
見 ノマディックカフェ ステップ先端に配置された職員同士のインフォーマルコミュニケーションの舞台。

作 工房 オフィス空間に隣接し、アイデアをすくなくカタチにして試すことができる場。

考 プロジェクトルーム 部門を越えたクロスファンクショナルチームでのものづくり。

確 インフォストリート 社内外の車両や部品、資料を展示し、知の共有コミュニティを促進。

知識創造日産版SECIモデル



よりクリエイティブでコミュニケーションが活性化されるワークプレイスを実現するため、SECIモデルをベースとした日産版「知識創造」サイクルを新たに構築。知識創造の「場」を点にさせ、人々がその「場」を循環活用することで、研究開発の質を向上させ、将来にわたり陳腐化しないサステナブルなワークプレイスを実現した。



ソーラチーム 自然の力を活用してステップの両サイドの自然光を効果的に取り入れ、自然採光、自然換気、自然調湿の環境を創出している。

電動外付けブラインド 太陽光を遮り、室温をコントロールし、自然採光、自然換気、自然調湿の環境を創出している。

ルーバーデッキと太陽光発電キャノピー 太陽光発電システムによる自然採光、自然換気、自然調湿の環境を創出している。

自然換気窓 グリーンキューブを介して自然換気を実現している。

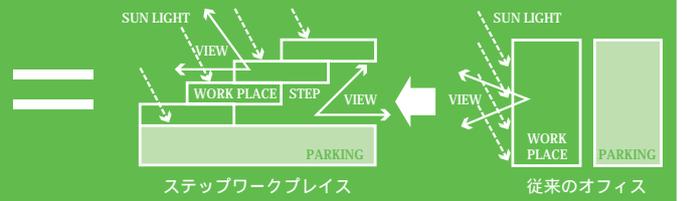
シースルーマンホール 太陽光発電キャノピーによる自然採光、自然換気、自然調湿の環境を創出している。

ステップワークプレイスという新しい環境デザイン

日産先進技術開発センターは、次世代の技術開発拠点として自然豊かな厚木森の里の地に計画された。かつての青校舎解体により発生した大量のコンクリートガラは緑化土塁として再利用し、大径木移植を積極的に行なった。またかつて丘だった地形をひな壇状の建物と屋上緑化により再現することで周辺の緑との連続を実現している。

一方で、そこで働く研究者のイノベーションを掻き立てるべく、日産版SECIモデルに基づく「知識創造の場づくり」を考案し、人々がその「場」を循環活用することで、研究開発の質を向上させることを目指した。

それら内から生ずる『知識創造ワークプレイス』の概念と、『修復・継続』による豊かな周辺の自然環境と共存するワークプレイスを繋ぐ建築的解として『ステップワークプレイス』という新しい環境デザインが生まれた。愛名緑地に向かってひな壇状に連続したトランプ台にやわらかく包まれたその空間は、研究者の意識を覚醒させ交流の機会を飛躍的に増大させ、緑の連続を体感できる癒しの空間でもある。その独創的な空間を執務可能な快適空間とするため、さまざまな環境創発技術が盛り込まれ、結果としてCASBEE Sランクのサステナブル建築が実現した。



ステップワークプレイス 従来のオフィス

愛名緑地 **緑の連続** **かつての地形の再生**

敷地境界 屋上緑化 樹木移植 緑化土塁 中庭・池

屋上緑化・ビオトープ 中庭には雨水を貯留する修景池を配置し、豊かな生態系の修復を行なった。屋上には地域に植生する樹種を湛積し、周辺の風景・植生と一体化した緑化を行なった。

大径木移植 大学キャンパス内に残る高木はできるだけ保存し、計画上伐採が必要な樹木のうち61本を専用機械により移植した。伐採樹木はチップ化し敷地内でマルチング材等に活用した。

緑化土塁 解体ガリ再利用緑化土塁 大学キャンパス解体時に発生したコンクリートガラは原則として全量を敷内再再利用した。70%のガラは緑化土塁として、30%のガラは緑化土塁として外構の修景材料とした。

緑化土塁 29.1% (199,211㎡)

建築廃材 26.8% (176,476㎡)

建築廃材 44.2% (291,379㎡)

周辺の豊かな自然の連続 地形・水系・植生の修復

青山学院大学キャンパス跡地の計画において、「地形の修復」「植生の修復」「水系の修復」の3つの環境修復をコンセプトに外構計画を行なっている。既存施設の解体コンクリートガラを全量敷内再使用する他、厨房排水・雨水など水の循環再利用、生ごみコンポスト化、廃棄物の圧縮梱包など、資源の有効活用も積極的に行なっている。

生態系の再生 環境修復を行った結果、周辺に自生する野生の鹿やカワガサの親子が遊びにできる環境ができた。

環境・設備デザイン評価表

評価項目	評価項目に対する設計者のデザイン意図 (評価項目の目的に照らし、選んでいる意図が、明確にしている部分にだけ詳しく記載してください。)	評価項目の達成度	評価項目の達成率
A 感性軸 (造形) Form	01 創発性	02 調和性	03 独創性
B 機能軸 (技術) Technology	04 象徴性	05 完成度	06 機能性
C 社会軸 (環境) Environment	07 効率性	08 利便性	09 安全性
D 経済軸 (ライフサイクル) Life Cycle Cost	10 先進性	11 環境負荷	12 資源消費
	13 地域環境性	14 コミュニティ	15 先進性
	16 付加価値	17 アラウンド	18 維持管理
	19 耐久性	20 LCC	

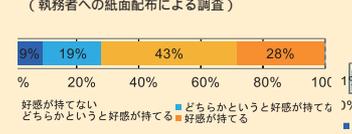
環境・設備デザインの評価



ユーザーの評価



ステップワークプレイスに関する好感度調査 (執務者への紙面配布による調査)



ステップワークプレイスでの仕事効率への影響調査 (執務者への紙面配布による調査)

